

## 第 2 回津市新最終処分場候補地選定委員会概要報告

- 1 日 時 平成 20 年 6 月 12 日 (木) 午後 6 時 ~ 午後 7 時 20 分
- 2 場 所 津市久居中央公民館 3 階 大会議室
- 3 参加者 選定委員 3 人、市職員 18 人、傍聴者 59 人、報道関係者 4 人
- 4 意見要旨
  - (1) 公開現地視察の結果について
    - ア それぞれの候補地は一長一短であるが、特に美杉の 2 箇所は市街地からかなり距離が遠く、CO<sub>2</sub> の排出による地球温暖化も考慮していかなくてはならない。しかし、最終処分場については、全国的に市の中心部から 40 km 以上離れた所に立地している例は少なくない。これは、日本が平坦地が少ないということもある。
    - イ 急峻なところに建設するのは、費用対効果など問題があるので、覚悟しなくてはならない。
    - ウ 山間部は、特殊な生態系がある可能性がある。
    - オ 各候補地に特色があり、いずれにしても施設整備するには工夫が必要である。
  - (2) 応募候補地の調査状況について
    - ア 降雨量、急激な大雨に考慮した施設整備が必要である。
    - イ 地元からたくさんの御意見をいただいているが、地元のみなさんの意向は考慮しなくてはいけないだろう。クローズドシステムで処理水を出さない、また、市民にごみ減量をお願いし、最小限の施設規模とすることが、地元への最低限の誠意である。
    - ウ 地元から多数の御意見がある。しかし、最終処分場の候補地選定に際しては候補地地域住民としての思いはあるものの、全市的な課題として考えてほしい。
    - エ 取り付け道路が美杉、南布引については、厳しいと感じる。
    - オ 特に美杉の候補地については、距離があるので、積み替えるための中継の場所を設けることも一案である。

カ 交通量は許容範囲を超えないのであれば、地元地域の方々に御理解をいただきたい。

キ 候補地選定をするに当たって、技術的な面を評価する場合、詳細なデータが必要となるが、候補地を決めてからでないと詳細な調査が出来ないと思うので、今回は、かなり概念的に判断をさせていただきたい。

ク 全般的に土地の形状がやわらかいと思われる。地盤調査をすべきである。

ケ 過去の災害状況を調査すべきである。急峻な地形では土壌がやわらかい可能性がある。詳しいことは無理なので、概略でいいので次回提示をお願いしたい。

(3) 候補地選定にあたっての基本的な考え方について

ア 候補地選定の考え方の項目に対するウエイトを同一とするのか、ウエイトを変えるのか検討が必要である。

イ 候補地選定の考え方の項目5については、分けるべきである。応募地の位置的な条件については運搬効率にかかわるが、地形については、建設段階での対応が可能であるから。

ウ リスクについては、ゼロリスクという概念はなく、リスクは必ずあり、リスクが起こる確率を少なくすることが重要である。

エ 整備構想による施設の計画は平坦地の想定である。急峻な土地柄、アクセスも遠い、道幅も狭いことから、候補地が決まった場合は整備構想等検討結果を見直す必要がある。